日大本部による日大新聞(廃刊)の焼却処分を許すな！

文責 建青協(日大建青連盟)

☑全ての日大理工の学友諸君！　建設学科の皆さんの学友諸君！　日大新聞の廃刊号が日大本部の圧力によって焼却処分された事を怒りをもって、うったえたい。

63年5月20日に両の時期の中での闘いの総括をふまえ「…」を開始した日大闘争を経過する中で、それ以前には大学当局からの弾圧によって表現の自由をうばわれていた日大新聞は、日大生共同の機関紙をめざしてくみとり、自らの変革をなしていった。

その事が67年2月以降、白田の居座り→バリケードの構力による解体→授業強行再開を通して、5大スローガン9項目を掲げ闘ってきた日大当局との対決をひき起こすきっかけを作り出った。日大新聞を大学にとっての機関紙化・近代化の道具としたい日大当局は、学生諸集団に対し絶縁なき弾圧を行ったのである。

建青協情報紙

ドンドン

日大アピール

火

火炎びんと成る日大！

レーニン

日大全共闘
理工学部
建青協
4年闘争

No.51
1970
07-06

大学当局との対決の中で、大学新聞の廃刊号は、日大アウシュビッツに代表される弾圧の実態と、新聞解体に至る過程を軸とした新聞であったが故に、日大当局＝本部の一方的解釈、「事実に反する」の名の下に押収された新聞と新聞、さらにどうまでも買い取り焼却というおろかしい行為に出たのである。そしてあろう事か大学当局の機関紙に成って「日大新聞・新入生特集号」（これは闘争部をまかれたようなものを発刊したのである。

我々は以上の学生弾圧状況の中から、実に日の丸理工7号ロケット用の使用、管理費問題などの本質的に学生が我々に対した弾圧にさらされる日大の事実から、日大新聞を廃止した対抗の学生新聞「日大学生新聞」の号を支援するとともに、真の新聞として育てあうことを宣言する。（は日大学生新聞編集委員会　　（中野　30Pに　　ぺこみつ

☆宣言文を当弾圧物語！
☆日大当局の…！
　日大生…年創造…！
　理工…学…！
　建築…クラス…！クラス解体！
☆会場…
☆…

7.8 日大全共闘討論集会　PM2:00 法政大学

理工集会　12:30　7号館前→